

GLOSEUP

岩手力!

後継者育成支援企業紹介

株式会社三和ドレス



「人づくり」に力を注ぎ
 高い技術と信頼を実現
 世界的ブランドメーカーの
 主要受注を確保

製品づくりは厳しくても まちがいのない会社と取り引きを

高級婦人フォーマルウェアの国内シェアは、東京ソワール、ラブリークィーン、イギンの3社で、ほとんどが占められている。

三和ドレスは、この3社の生産工場として、主に百貨店などで1着約10万円から30万円台クラスで販売される高級フォーマルを生産。大沢孫藏社長は、その生産量を「スーツを年間で約10万着。フォーマル関係の工場としては、その数はおそらく国内でトップだと思います」と説明する。

同社が日本を代表する各メーカーから信頼されているのは、変わらぬ「ものづくり」への姿勢と高い技術が評価されているからだ。

「日本人の『ものづくりの心』を大切に、社員一人ひとりの情熱と創造力を結集。世界の一流技術を学ぶと同時に、企業内技能訓練を行うなど、たゆまぬ努力を続けてきた」



同社は昭和41年、東京・練馬の6畳2間のアパートからスタートした。創業社長は現社長の大沢氏。二戸市に生まれた大沢社長は、福岡高校を卒業後、教師の勧めで東京の食品製造販売会社の就職試験を受け、幹部候補生として採用された。やがて新しく結成された労働組合と会社側の板ばさみになり苦悩、3年目で会社を辞めて日本橋の小さな繊維問屋に転職した。

「将来は、何かの仕事で独立したいと思っていた。そのためには大きな設備がいらず、ミシンとアイロンさえあればできるからと考えて、繊維関係を選んだのです」

その後、業界に徐々に人脈を広げ、昭和41年に念願の独立を果たす。独立準備中には妨害工作を受けたり、独立してからは人にだまされたり、裏切られたりと苦い体験もした。

「いろいろと経験を積むうちに、製品づくりは厳しくても、規模の大きいまちがいのない会社と取り引きをしようと考えた。そして、ある方のご紹介で出会ったのが世田谷にあったソワール洋装店でした」

ソワール洋装店は昭和44年に株式会社東京ソワールに組織変更。全国各地に取引先を拡大しながら婦人フォーマルウェアの老舗として倍々ゲーム的に成長していく。

三和ドレスもそれに伴い、業績を伸ばして

盛岡市と二戸市に工場を持つ三和ドレス（本社東京、大沢孫藏社長）は、高級婦人フォーマルウェアの国内主要メーカーの東京ソワール、ラブリークィーン、イギンを受注先として発展を続けてきた。昨年末には中国・大連に100パーセント出資会社を設立。少子高齢化時代に対応した新発想衣類（特許取得済）の生産準備を進めている。

▶二戸工場3階の裁断室。CAD/CAMシステムが導入されていてコンピューター制御で生地が正確に裁断されている

▼高い技術が必要なギャザーづくり。高級感や風合いをかもしだす縫製には、機械に任せられないノウハウの積み重ねが必要だ



いく。そして昭和53年5月、東京ソワールの意向を受けて、大沢社長の故郷である二戸市に工場を設立したのである。ところがその直後、大沢社長は突然の大打撃を被る。

工場閉鎖の危機を乗り越え 高い技術で反転攻勢

三和ドレスが最大の取引先の東京ソワールから「生産調整をしなければいけない」と連絡を受けたのは、二戸工場を稼働してわずか1カ月の昭和53年6月のことだった。

「練馬の工場か二戸の工場か、一つを閉鎖しなければいけなかった。最大の危機でした」

大沢社長は考えた末、二戸工場の閉鎖を決意。しかし最後の努力として夜行列車に飛び乗り、人脈を頼ってオンワード樺山に飛び込んだ。担当者の返事は芳しくなかった。大沢社長は肩を落として、翌朝発の特急列車で二戸に戻った。すると、そこにはオンワード樺山から大型トラックで3カ月分の原反が届いていた。まさに起死回生の出来事だった。

危機を乗り越えた同社はその後、高級ブランド製品への完全転換や、業界トップクラス

の縫製技術の確立、CAD/CAMシステムの導入などで経営基盤を強化してきた。

「人づくり」には、特に力を注いできた。「製品をつくるのは人の技術。ですから創業以来、一貫して人材育成に取り組んできました。従業員には、会社のために技能を伸ばすんじゃないんだよ、自分のためにやりなさいと常々言ってきました」

技能向上のために、技能専門職の若い人に「技能五輪」出場を奨励。社内に育成システムも構築した。今年2月の全国大会では銅賞と敢闘賞の受賞者が出た。過去には金・銀・銅・敢闘賞を一気に獲得したこともある。

女性従業員が多いため、働きやすい環境づくりにも取り組んできた。平成元年、岩手で初の企業内保育所を併設。今年4月には会社の近くに複合型在宅介護総合施設を開所した。これは従業員の親世代が、介護の必要な年代になってきたからだ。

大沢社長は社会福祉法人の理事長にも就任し、ますます多忙だ。その社長を支えているのが、長男の大沢貴規取締役営業本部長（35）だ。昨年は6カ月間にわたり、いわて産業振興センター開催の「いわてものづくりアカデミー」のセミナーに参加した。同社は昨年12月、中国・大連に100パーセント出資の「三和服装貿易（大連）有限公司」を設立した。今後、高齢者が着脱に便利で、オシャレ感覚も楽しめる新発想の衣類（特許取得済）の生産準備を進めていく。この事業は大沢本部長が大きな役割を果たしている。



◀取締役営業本部長の大沢貴規氏。大学時代に中国語を学び、大学に通いながらボタンナーの技術を学ぶ専門学校に通った。現在は、同社で受注関係のすべてを担当している

企業概要

- 設立 1966年12月
- 代表者 大沢孫藏
- 所在地
〔本社〕
東京都練馬区向山2-13-9
電話 03-3970-3341（代表）
〔二戸工場〕
二戸市石切所字上里沢3
電話 0195-23-5331
〔盛岡工場〕
盛岡市東仙北2-5-40
電話 019-635-2140
- 資本金 3,000万円
- 事業内容
高級婦人服、ワンピース、スーツなどの生産
- 主要取引先
三井物産(株)、イギン(株)、(株)東京ソワール、ラブリークイーン(株)
- 従業員数 180人
- 出捐法人 株式会社メルシ・サンワ
社会福祉法人共生会

URL
<http://www.ginga.or.jp/~sanwadress/>

今月の表紙「企業の力は人の力」との考えで技能向上に力を注いでいる株式会社三和ドレス。工藤由美子さん（手前）、（左から）村中百枝さん、古館初美さん、田中博子さんの4人は、二戸工場の縫製チームの各リーダー。毎年「技能五輪」で入賞者を輩出する同社の高い技術と、確実な生産体制をリードしている。「私たちが着てみたいトップブランドの製品をつくっているの、仕事は楽しいですね。岩手の技術力が世界に認められているということで、みんな誇りをもっています」

大沢孫藏社長。1939年12月、二戸市生まれ。58年3月に福岡高校を卒業して新宿中村屋（株式会社中村屋）に就職し、営業から研究・開発まで経験。その後、繊維問屋を経て85年4月、東京・練馬に株式会社三和ドレス設立。98年9月に二戸市に社会福祉法人共生会を設立し、特別養護老人ホームなど介護福祉施設も運営。「健康法は毎日8時間の睡眠をとること。缶ビール1本とコップ1杯のお酒が睡眠薬です」

